

津島市巡回バス検討委員会 会議結果

第1回津島市巡回バス検討委員会

日 時:令和元年7年5日(金) 午前10時から午後0時10分まで
場 所:津島市役所 3階 市長公室

◆ 議題

- (1) ふれあいバスの運行実績等の現状について
- (2) ふれあいバス運行ルート等の見直しについて

◆ 会議結果

1 議事

- (1) ふれあいバスの運行実績等の現状について
 - ・現在の運行ルートや利用者数、経費などについて事務局から説明した。
- (2) ふれあいバス運行ルート等の見直しについて
 - ・ふれあいバスのルート等の見直しの概要と見直しに当たっての前提条件を説明した。

項目	条件
運 行 経 費	市の負担する額が現状を超えないようにすること。
運 行 車 両	現行の2台の車両を使用すること。
運 行 日	全てのコースを毎日(月～土曜日)運行すること。
ダイヤ編成	現在定常的に発生している遅延に対応するとともに、法令で定められた運転手の休憩時間が確保できるダイヤ編成とすること。

- ・ふれあいバス運行ルート等の見直しのスケジュールについて説明した。
- ・ふれあいバスに関するアンケートでの意見や要望及びこれまでの要望を踏まえた、市の提案する見直しの案について説明した。
- ・各団体からの市の提案する見直しの案に対する意見や各団体からの見直し案の提出について説明した。
- ・ふれあいバスに関するアンケート結果、ふれあいバス要望一覧(平成26年7月改正時から現在まで)及びふれあいバス運行ルート等の見直しに係る市の見解等については、市の提案する見直し案に対する意見や各団体からの見直し案の提案の提出に当たり参考としていただくために添付していることを説明した。

【各委員からの意見・質問】

- ・本日のために地域のいろいろな人に事情を聞いて、いろいろなデータを出して、神島田校区として、最重点である永和駅の乗り入れの話をしようと思って来た。
資料では、市からある程度の見解が出ているため、どうやっても全く無理だということになる。どのような形で団体から提出すると検討してもらえるか不安である。
- ・大前提は、バス2台を最大かつ、有効に使う話をするることである。現在の路線が正しいのか、どこが違っているのか、どうしたらいいのか、というのは、市からの案は出ているが、あくまで提案で、参考意見である。それらを含めて、ここの委員で検討し直すということではないか。
- ・車両自体の問題、時間の問題、A、B、C、Dの表示が良いのかとか、わかりやすいのかなど、バスの運行の仕方がまず1つと、バスの路線の問題が1つ。進行の仕方は、2つを順番にやっていく形にしてもらった方がわかりやすい。
- ・地域でいろいろな問題を抱えており、5年前の改正でバス停がなくなった地区もある。高齢化が進み、運転免許証の返納等でどうしてもバスが来てほしいが、バス停がないので、要望がある。など問題を出し合って、次回から各コースを全体でたたきあって、これはここがおかしいとか、市の提案は無理があるとか、これは良いなどを順番にやらないといけないと思う。
- ・バス停がなくなる場所もあるし、変わるバス停もあるといったときに、私たちは、なくなる方に対しては、説明しないといけない。そのような問題を抱えている。他の委員の皆さんも地元においての問題を抱えているので、今、それぞれの人がどんな問題を抱えているのか聞いてみてはどうか。
- ・初めに先生が、道路が広くなったとか、施設が出来たとか、いろいろな見直しだとおっしゃられた。大きな道ができたり、施設ができたりというものがないのであれば、バス停の利用が少ないところは、少しこっちに移動するといった程度でないと難しい。

【アドバイザーからの助言】

- ・現状が、良いのか、悪いのかという話である。今回の市役所の提案が良いか悪いかではなく、今現在が、どのような問題を抱えているのか。それに対して、どのような要望を持っているか。先ほどの永和駅の問題のように皆さん問題を抱えているから、もう一度改めて、ここでしっかりと共有する。
個別の地域ごとにはわかっている問題でも、津島全体の人がわかっているかということそうではないかもしれない。それを共有するのが第一段階だと今感じる。その後、問題を解決するためには、どんな方法でやって行けばよいかがあると思う。
市役所は、アンケートや要望で、個別に聞いているものがあつたので、それ

に対して答えようとして、提案している。全体としてのまとまった意見をもとに直しているわけではないので、そこで考えのタイミングなどがずれているように感じた。そこをうまく調整して進めていただきたいと思います。

市が出している見直し案についてだけではなくて、今現在抱えている皆さんの地域の課題を提出していただくべきである。皆さんの地域の課題を出さないと、ある程度、意見があるから良いではなく、せっかく皆さん代表で集まっていて、それだけの責任を持ってやられようとしているので、そういったところを尊重した方が良いと思う。

【各委員からの意見等】

- ・ 会議は、4回しかないなので、どのように進めるか会長さんに決めていただくほかないと思う。
- ・ 7年前には、自分の家の前に止めてくれなどいろんな意見が出た。そのような意見がものすごく出て、一度、市の方がこの意見は検討していけるだろう、これは無理だろう、これはもう少し時間が掛かる、など分類して、いけそうだと分類したものを検討して前に進めた。
今回は、資料の説明で時間が掛かっている。前もって市の方で作ってあるのではないかと解釈されたかもしれない。皆さんは、自分の町内のいろんな意見を吸い上げて、今日持ってきている。それを一度ここに出して、検討しても良いか、という会議を行うつもりだった方もいると思う。皆さん地域の代表として来ているので、一人ずつ意見があるはずなので、それを一度出し合って、市の方で考えていただいた案もひっくるめて、一緒に1つの方向に向かっていくように進めていただければ、会議もスムーズに終わるのではないかと思います。皆さんどうですか。
- ・ 7年前に検討して、運行を続けて、今の実績がある。いろいろな検討をして今のルートがある。状況が変わったところを見直すことしかないのであれば、私は参加する意味がない。
- ・ 前は、バスを買うか買わないか、バスをやめるかどうかから始め、コースもまっさらな所から、新たに作って、5年間でこれだけ実績が上がった。数字の上昇が程度が本当にこれで良いのかが問題で、乗車率で出すと、少ない乗車率だと思う。バスを税金で運営しているので、無駄遣いにならないように、税金を有効に使うためにもっと乗車率を上げないといけない。
- ・ 意見が通るとか、通らないとかは別にして、この地域のために、このように使いたいという、私たちの意見をここで出せば良いと思う。検討委員会はそのようなことをやらないといけない。その後、行政がどのような判断をするかは、別問題である。
- ・ 神島田校区については、全体の流れから永和駅に乗り入れをするべきだろうと私は思っている。

- ・青塚駅は、今回は無理かもしれないが、今後、道路状況も変わるかもしれない。
- ・他の校区のことになるが、今回は何とか永和駅に乗り入れできないかと考えている。
- ・今も永和駅の方に行っているが、駅から大分離れたところに停留所がある。
- ・以前は、停留所がなかったが、前回の検討委員会で通して進歩した。それでも不具合がある。それをどうするかということは、今回やればよい。
- ・ふれあいバスが隣の市町村に乗り入れることは可能か。

⇒ (事務局)

- ・市町村の区域を越えた運行をする場合は、相手方の市町村と協議をして、了承をいただければ、乗り入れは可能だと考えている。
- ・立田や八開から市民病院に乗り入れたいという声も聞くが、市長から要望できないか。

⇒ (事務局)

- ・愛西市のバスの市民病院への乗り入れについて、今年の2月に津島市長から愛西市長に要望を行ったところであり、今年、愛西市のバス検討委員会の方で検討していると聞いている。
- ・バス停がなくなるところ、最初からないところについて、デマンドタクシーでの対応などの案を考えるということだが、もう少し詳しく説明してほしい。

⇒ (事務局)

- ・デマンド交通の考え方は、前回の検討委員会の中でもあり、大縄住宅の方などから要望がある。大縄住宅に行くまでのルートは、大型の車両が近づけないという規制もあって、なかなかバスを延伸するのが難しい地区になる。そういった地区に関しては、タクシーを使って、今あるバス停まで行ければ、そこからふれあいバスを利用できる。バス停から帰るときも、タクシーを呼んで帰る。タクシーを使うが、ふれあいバスを使うための線の引いていない路線を運行するものと考えて、稲沢市だと、バスと同程度の200円の利用料金の負担となっている。

- ・不公平感がでないか。

⇒ (事務局)

- ・どこでも行けるということであれば、確かに不公平感があると思うが、バスの路線がないところにそこにバスの路線を延ばすようなものとなる。
- ・バス停まで歩けばよい。動けない人は、バスとは別で、福祉部局で考えてもらえば良い。
- ・バスをやめてしまって、全部シェアタクシーにするのであれば、問題なく公平だが、バスとバスがないところに補助でやるといっても、自分のところもないのに、あそこばかりが、なんでという話が出てくると思う。
- ・距離を決めて、ここのバス停からここまでという距離が限定されれば、あつ

ちもこっちもとならない。

- ・大縄地区だけではなくて、他の地区でもそういう可能性はある。
- ・当然いくつもあると思う。中途半端なことは絶対に不公平感を生むのでやらない方がよい。

⇒（事務局）

- ・例えば、稲沢市では、路線バスが走っていて、全てのバス停から500mの範囲の円を書いて、そこから溢れる地域については、バスを使うのに距離が遠いということで、その地域にデマンドの設定をしている。
- ・公共交通の駅・バス停から500mを超える地域は、市内でおおよそ何か所ぐらいあるのか。

⇒（事務局）

500mを超える地域で住宅街があるのは、西愛宕の一部分、大縄住宅の辺り、葉苺の一部分となっている。

- ・天王通り、橋詰のあたりもバス停がないのではないか。

⇒（事務局）

- ・ほとんどが名鉄津島駅やふれあいバスのバス停の範囲内になる。

【アドバイザーからの助言】

- ・決まりきった形の話もあるが、工夫次第では、新しい考え方もある。それでは、新しい考え方を誰がどうやって提案するのかというのは、なかなか難しいところではあるが、一つの新しい考え方が先のデマンドと呼ばれたものである。デマンドは、確かに呼ばないといけませんが、じゃあどのように呼んだらいいのかという工夫も実際にほかのまちでやっているが、いろいろある。そういうところも検討しなければいけないということがある。

運転手の休憩時間を確保しなければならないというダイヤの話が先ほどあったが、偶々、津島市の場合は、ひとりの運転手で1日を組むということであったが、それが無理なので、2人の運転手になっているということであるが、だったら逆に複数の運転手を想定したダイヤの組み方というものもあるのかなというのもある。

皆さん、状況を見て、使いやすい、使い勝手がいいというところも見ていただいて、どうしたら良いのかというのがあるかなと思った。その2点だけである。また、いろいろとお考えを集めていただければ良いかなと思う。

第2回津島市巡回バス検討委員会 会議結果

日 時：令和元年11月15日（金） 午前10時から午後0時5分まで
場 所：津島市役所 3階 市長公室

◆ 議題

- (1) 各コースの見直し案について
- (2) 巡回バスだけでは賄いきれない地域の交通手段について

◆ 会議結果

1 議事

(1) 各コースの見直し案について

【事務局資料説明】

- ・第1回の会議以降に各委員から提出された提案や意見の中からルートに関するものを資料1にまとめている。
- ・資料1の提案や意見を市において検証し、実現可能と判断した事項を市からの提案と合せて、各コースの検討事項として資料2にまとめている。
- ・資料3については、ルートに関すること以外の各委員から提出いただいた提案や意見をまとめている。

Cコースの見直し案について

(1) 越津町西付近

- ・越津町西を廃止して、日光町と下切町にバス停を新設することについて、越津町西の利用者が少ないということで、越津町の町内会長の方から了承を得ており、異存はない。

(2) 生涯学習センター付近

- ・今は、生涯学習センターの前にバス停がある。神守小学校区だけでなく大勢の方が利用する施設のため、廃止しても良いものかと個人的には思う。
- ・生涯学習センター東を代替手段とするようなことが想定されているが、提案のあった移動候補場所の周囲にはなにもない。ゲリラ豪雨などの際に避難できる建物が近くにある場所がベターではないかと思う。

Dコースの見直し案について

(1) 大坪町付近

- ・名鉄バス大坪のバス停付近には、住宅がないため、現在の住宅に近い方が便利だと考える。今は利用者が少ないが、これから高齢化が進めば、利用者はもっと増えてくると思う。
- ・時間短縮する必要があるのであれば仕方がないが、そうでなければ、住宅に近い現在のルートを通るべきだと思う。
- ・大坪から名鉄バスに乗る人は、大坪の名鉄バス津島営業所に駐車場があるので、ほとんどの方がそこまで車で行かれると思う。

(2) 生涯学習センター東・莪原町付近

- ・生涯学習センター東、莪原町のバス停を西側に移動する案だが、その場所は田んぼの中であり、住宅がない。そこまで歩かなければならないのは不便である。
- ・生涯学習センター東のバス停は、今までどおり住宅地の入口にある方が良い。

Bコースの見直し案について

(1) 永和駅への乗入れ、(2) 永和駅付近

- ・永和駅への乗入れは、コース全体へ影響するが、ダイヤは一度決まるとその後に見直すということはないのか。

⇒ (事務局)

- ・前回の平成26年改正時でもダイヤを変えた後は、そのダイヤで、どうやってバスを使えばよいのかわからなくなる方がおり、一旦は、バスの利用者が極端に減る。その後、1年、2年経って、このように使えるということが浸透してくると、利用者が増えてくる傾向があるので、どうしても不都合があるということであれば、極力ダイヤは変えない方が良く考えている。全体的なバランスを取って、永和駅への乗り入れができるということであれば、この案でお願いしたい。
- ・神島田地区においては、昔から永和駅がアクセスポイントである。名鉄バスが廃止され、コミュニティバスということであった。高齢者も多くなってきたので、是が非でも永和駅に乗り入れてほしいという話が地域から出ている。
- ・永和駅乗入れには、どんな問題があるのか。

⇒ (事務局)

- ・津島駅での乗り継ぎを考慮して、1コース1時間以内で収まるようにという考えがあり、永和駅に行くには、踏切を越えなければならず、多くの時間が掛かるため難しいという判断をしていた。
今回、永和駅までの所要時間を実測し、永和駅に行く場合を想定した仮のダイヤを組んだ。結果としてBコース1回りが1時間を超えてしまうが、Aコースの本数が減ることや途中で運行を打ち切るコースが出るなどの他コースへの影響を前提としたものとなる。
- ・愛西市との関係はどうか。

⇒ (事務局)

- ・議会の議決までは必要ないが、愛西市内にバス停を設けるといことなるので、同意をもらうことが必要である。また、津島市地域公共交通会議に愛西市の職員に出席していただき、永和駅に行くことについて、協議する必要がある。

- ・永和駅の使い方として、海南病院にバスに乗り継いで行きたいという声がある。
- ⇒（事務局）
 - ・現在示されている時間帯では、海南病院への通院に間に合わない気がするがこの時間でよいのか。
 - ・帰りの片道だけでも乗って帰れば良いかと思っている。
 - ・どういう時間で、どんな利用ができるのかは、今後も検討していかなければならないと思うが、まずは、乗り入れが可能になりましたというのが、最初の問題解決と考えている。
 - ・Aコースが減便となることについて、必要としている地域をある程度優先するのは、仕方ないことだと思う。最初は、どのパターンでも、苦情があると思うが、やってみないとわからないし、ある程度慣れてくれば、新しいダイヤでの時間帯で活動ができるようになると思うので、大丈夫だと思う。

Aコースの見直し案について

(1) 日光町地内、(2) 西愛宕町1丁目付近及びヨシヅヤ本店付近

- ・現在のヨシヅヤ本店のバス停は、皆さん利用され定着していると思う。歩道も広くそちらの方が安心して使ってもらえる。
- ・ヨシヅヤ本店北は、名鉄バスのバス停があるところだと思うが、乗降場所も狭く、交通量も多いところなので、今の位置の方が良い。
- ・西愛宕1丁目へのバス停設置の提案は、この場所にバス停を設置してほしいという要望があつての提案か。

⇒（事務局）

- ・提案している場所への要望はないが、さらに南側の湯楽付近へのバス停の設置要望がある。そこまでは行けないので、行けるところまでを検討し、結果として、この位置に設置する提案となっている。
- ・湯楽の前の道は、交通量も多く、バスを止めるところがないのはわかる。だからといって、要望の無いところに設置するのか。提案位置よりも少し北の橘町の方が住宅も多くあり、良いのではないか。

⇒（事務局）

- ・その場所は、一方通行であり、運行できない。
- ・他に設置するところがないのであれば、要望位置でないので乗車率はあまり期待できないかもしれないが、西愛宕町1丁目の今の提案の位置に設置するしかないのではないか。
- ・西愛宕町の方を運行して4分増加、ヨシヅヤ本店北のショートカットで3分短縮とのことであるが、西地域防災コミュニティセンターを廃止すれば、ヨシヅヤ本店北へのショートカットをする必要がないのではないか。

⇒（事務局）

- ・ 前回のバス検討委員会でも大縄町へのバス停設置の要望があり、国道155号線を西側に越える箇所として、西地域防災コミュニティセンターにバス停を設置しており、近くにほかのバス停もなく、利用者が極端に少ないということもない状況である。また、大縄町の人にバスを使ってもらえるように、大縄町から西地域防災コミュニティセンターを結ぶ接続便の提案をさせていただくことを考えている。ヨシヅヤ本店付近について、時間短縮のためにヨシヅヤ本店北に移設する提案をしているが、無理にショートカットせず、所要時間が若干伸びるが、現行のルートのままということも選択肢としてはある。
- ・ 西地域防災コミュニティセンターのバス停を残すのならば、大縄地区との関係を合せて考えないと意味がないと思う。

(3) マックスバリュ津島江西店前

- ・ マックスバリュまで横断歩道のないところを横断させるのは怖いので、横断歩道のある交差点に近いところにバス停を設置した方が良い。
- ・ 近所の方は、歩いてマックスバリュに行くと思うが、どのような人がこのバス停を使うと想定しているのか。

⇒ (事務局)

- ・ マックスバリュに行きたい方以外にも、近くには住宅があり、そこに住んでみえる方が、病院に行くときなどに使えるようになるということがある。

(4) コースの逆回り運行

【名鉄バス株式会社】

- ・ 現在では、Aコースから津島駅で10分以内に乗り継いで市民病院、ヨシヅヤ本店まで無料で行くことができる。逆回り便を入れると乗り継ぎなしで市民病院、ヨシヅヤ本店に行けるようになるが、片回りが3本だけになってしまうので、逆に利便性が下がるように思う。

(5) 明天町・大政町付近

- ・ 道路状況から住宅街に入っていけないということは理解した。
- ・ 明天町、大政町に対する配慮として、本町5丁目のバス停を少し南側にずらせば、利用しやすくなると思う。

その他の提案について

- ・ 今のコースを運行する前のAコースでは、津島駅の西側を走り集客し、津島駅に行って、その後に市民病院、ヨシヅヤ本店に行き、もう一度津島駅に戻るといったコースであった。5年前の資料をみたら、今のコースになって乗客

数が減ったとあった。なぜ、利便性を落としてこのコースになったのかが不思議である。前のコースの方がよいと思う。

⇒ (名鉄バス)

- ・以前のコースだと、住宅地を回って、市民病院、ヨシヅヤ本店に行っていたが、帰りは、津島駅に戻って、戻ったところから乗り継いでまた、ぐるりと回って帰らないといけないということで、帰りの乗り継ぎがあった。今は、確かに行きで乗り継がないといけないが、行きであれば、どのコースでも、市民病院、ヨシヅヤ本店に行けるため、次の乗り継ぎの便が10分以内に出ている。津島駅で乗継券をもらえば100円で市民病院、ヨシヅヤ本店に行くことができる。
また、乗り継ぎが必要であった帰りは、Aコースでは乗り継ぎをしなくても直接帰れるようになっている。
- ・乗客の皆さんに聞いたところ、7、8人のうち4、5人の方は、利便性が高くなれば、運賃が200円、300円でも良いとのことで、中には、500円でも良いという方もいた。現在の本数では、帰りはタクシーを呼ばざるを得ない。それならば、運賃を値上げして、もう一台バスを増やした方が良いと思う。
- ・ふれあいバスに6回乗って、4人の運転手から話を聞いた。4路線であることでバスが遅延することが多々あり、遅延すると休憩時間がほとんどなくなる今の労働環境は運転手からするときついという話があった。ふれあいバスに乗ってみて、名鉄バスの一般路線よりもスピードが出ていて、運転も荒く、運転手さんが焦って運転しているように感じた。車内放送が聞きにくい方も見えた。労働環境がきついかわからないがあまり好意的な見方はできなかった。そのため、4路線を3路線にしてもっと効率的に運行する方法を市に提案した。2台のバスで4路線は、運転手さんがきついと思うし、本数が少ないので乗車率が増えない。3路線にして、本数を増やし、出来れば日曜日も運行すると良いと思った。

(2) 巡回バスだけでは賄いきれない地域の交通手段について

- ・料金については、どのようにするのか。

⇒ (事務局)

- ・定額制とすることを考えている。
- ・大縄住宅などへの説明会などはするのか。

⇒ (事務局)

- ・料金のこともそうだが、実際に運行するためには、地元の地域の了承を得る必要があると考えている。
- ・大縄地区の皆さんと一度話し合いをして、どのような意見が出るかということだと思う。
- ・今の1日6便は多いのではないか。

⇒（事務局）

・ふれあいバスの運行を補完するというので、ふれあいバスの本数に合せている。

・配車センターはどこになるのか。

⇒（事務局）

・タクシー事業者を想定している。

・大縄地区への提案として、前に進めていきたいと思う。

【アドバイザーからの助言】

・各コースの見直しを頂いている最中だが、特にAコースは、従来の位置付けがちょっとずつ変わってきたと思う。以前のシステムでは、Aコースだけ毎日運行で、B、C、Dコースが曜日運行であった。そこで重みづけがあって、公共施設をまわるAコースだけが1日8便ということでやってきていた。最近の見直しで全部毎日運行になり、Aコースが一番大事かといえば、そういうことでもなく、AコースとB、C、Dコースの重みづけが変わってきている。今回、Bコースの関係でAコースの便数が減るとするのは、その一つの現れで、各コースそんなに差がなくなってきたという印象を受けた。市の中心にある津島駅と市民病院と商業施設をぐるぐる回るというコースが以前はあったが、なくなったという意見があった。今は、各コースで補いながらやっているのだから、各コースの時刻表だけでなく、駅と病院と商業施設の部分だけを取り出したものを作るともっとわかりやすくなると思う。先ほど乗り継ぎの話題もあったが、それがみえてくると思う。そのようなことも含めて、検討されたらどうかと思う。

第3回津島市巡回バス検討委員会 会議結果

日 時：令和元年12月16日（月） 午後2時から3時49分まで

場 所：津島市役所 3階 市長公室

◆ 議題

- (1) ルート等の見直し案の決定について
- (2) ダイヤ編成の見直し方法について
- (3) 巡回バスだけでは賄いきれない地域の交通手段の検討について

◆ 会議の結果について

1 議題

- (1) ルート等の見直し案の決定について及び(2) ダイヤ編成の見直し方法について

【事務局資料説明】

・資料2について、見直し案についてのダイヤ編成案を提示している。Bコースで永和駅に行くことで全体の所要時間が延びる部分について、Aコースを

6便から5便に減便すること、Dコースの最終便が神守町住宅止まりとすることで調整する案となっている。

- ・また、BコースとCコースの最終便について、17時を過ぎてから「市役所」での乗降がほとんどないことから「市民病院」から「市役所」及び「津島駅東」を経由しないで、終点「津島駅」まで直接行く設定としている。
- ・ダイヤ案が2案あるのは、Aコースで「西愛宕町1丁目」及び「愛宕町2丁目」のバス停を新設するか否かで1便あたりの所要時間が変わるためであり、案1が西愛宕町方面に南下する場合、案2が西愛宕町方面にバス停を新設しないで現行のルートを通る場合のダイヤ案である。
- ・案1では、西愛宕町方面に新たにバス停を新設する代わりに、Aコース第3便の乗継ぎでBコースへの乗継ぎができないこと、他コースからの乗継ぎなどで津島駅から利用する場合に市民病院及びヨシヅヤ本店までの所要時間が増えること、時刻表全体のダイヤが徐々に遅い時間にずれ込んでいくことなど全体の利便が低下することになってしまうので、利便のことも含めて、ご検討いただきたい。
- ・資料1により、各コースの検討をする前にそれぞれの見直し案について、バス停の改廃や設置位置などの説明を行った。

Cコースの見直し案について

【事務局資料説明】

- ・資料1及び資料2によりCコースの見直し案を説明
⇒（各委員）
 - ・見直し案について異議なし

Dコースの見直し案について

【事務局資料説明】

- ・資料1及び資料2によりDコースの見直し案を説明

【各委員からの意見等】

- ・案では、第4便の時間が遅くなり、神守住宅でストップとなる。5時過ぎの時間から金柳や大坪、市民病院で乗って、津島駅に出る方が結構みえる。その辺りの人がまるっきり利用できないことになる。

⇒（事務局）

- ・金柳、大坪、神尾辺りから津島駅に出るという方には、申し訳ないが、地図で示している近くの名鉄バスのバス停から津島駅に出ていただくことを想定している。
- ・名鉄バスがあるので、そちらを使ってくださいでは、納得できないと思う。
- ・最終を津島駅まで行くとどのような弊害があるのか。できないのか。

⇒（事務局）

- ・神守住宅から津島駅まで行く場合、現在のルートでは、約25分掛かる。また、運行を終えて、大坪の車庫に戻る回送に要する時間も神守住宅から大坪の車庫は近いが、津島駅から大坪の車庫となることで時間が増える。この回送時間についても運転手の拘束時間として経費が掛かる。
- ・神守住宅から津島駅まで全部止まれば25分ということであり、途中で止まるバス停を削って短縮すれば良い。
- ・経費が掛かるといっても神守住宅から津島駅までの区間だけであり、大した時間ではないと思うので、名鉄バスと津島市で交渉し、変わらない金額でできるようにしてほしい。

⇒ (事務局)

- ・神守住宅から津島駅まで行き、その後に津島駅から大坪の車庫まで行くのに仮に40分ぐらい要するとすると、年間308日ある運行日のすべての日で40分増えることになるので、それなりの時間数になる。

⇒ (名鉄バス)

- ・時間が伸びれば、その分の人員を費やすことになり、経費も掛かる。計算してみないとわからないが、毎日のことになるので、決して安価ではなく、100万円に近い経費が掛かる可能性も考えられる。
- ・需要がなければよいが、需要があるのであれば、やはり運行すべきである。今日結論を得なくても引き続き検討していくことにすればよい。

⇒ (名鉄バス)

- ・どれぐらい費用が変わるのか再度しっかりと見積りたい。
- ・第4便は、なんとか津島駅まで行っていただくことを要望するので、検討してほしい。

⇒ (事務局)

- ・予算上のこともあるが、再度考えたいと思う。

⇒ (名鉄バス)

- ・名鉄バスは確かに運賃がふれあいバスより高いが、ふれあいバスだけを津島市の公共交通としてみるのではなく、名鉄バス路線も公共交通として考えてほしい。今は、運転手不足ということもあり、便数などもなかなか増やせないということがあり、各自治体がコミュニティバスを運行しているという状況がある。今、よく言われているのが自治体の中で公共交通というものをコミュニティバスと民間の路線バスで切り分けるのではなく、その自治体で、コミュニティバスと民間の路線バスとで合わせて、ここは公共交通が既に運行しているから乗れるというように、なるべく交通空白地帯を減らしていく。さらに、バスが入っていけない地域は、今、検討されているようなデマンド交通など小さい車両で補うなどの取り組みがされている。コミュニティバスと路線バスは全くの別物ではなく、津島市内の公共交通として一緒にみていただけるとありがたい。

Aコース及びBコースの見直し案について

【事務局資料説明】

- ・資料1及び資料2によりAコースの見直し案を説明

【各委員からの意見等】

- ・愛宕町2丁目のバス停の位置について、設置予定位置は、住宅を建設中ではないか。設置はできるのか。

⇒（事務局）

- ・建設箇所の少し東側の空き地となっているところに設置予定である。警察に確認したところ、今のところは問題ないとのことであった。空き地に建物が建つ場合などに少しバス停を動かす必要が出てくることも考えられる。
- ・Aコースは、本来要望のある位置ではないが、妥協案として、この位置に設置する案でいくしかないのではないか。

⇒（事務局）

- ・西愛宕方面に南下する場合は、Aコースの1便あたりの所要時間が5分増えることになる。これにより、他コースを含めて、全体のダイヤが徐々に後ろ倒しになる。朝のなるべく早くに病院へ行きたいような利用の多い時間帯も到着が少し遅くなる。5便あるため最終的には、全体を通して25分間分だけ後ろに時間がずれる。また、Aコースの第3便からBコースへの乗継ぎができなくなるので、その辺りのデメリットがあることを踏まえて、ご検討をお願いします。
- ・Aコースを6本から5本に減らすことになっているので、それでダイヤをコントロールできるのではないか。

⇒（事務局）

- ・Aコースの減便は、永和駅に延伸するために行うものであり、減便で得られる時間は、全てをそこに割いており、それでも時間が足りない状況である。
- ・妥協案だとしても、最低限、西愛宕町1丁目、愛宕町2丁目の停留所を新設し、少しでも要望のある南に向かって運行をしてほしい。西愛宕地区や大政地区から強い要望がある。歩けば、少しは利用できる人もいると思う。
- ・利便を考えればきりが無い。永和駅への乗り入れは今回の一つのテーマであり、永和駅へは行く。Aコースも1本減らしても西愛宕へ行く。これもテーマである。これで利便性が多少悪くなくても仕方がないのではないか。

⇒（事務局）

- ・どちらに行く案も可能であるが、西愛宕町方面に行く場合は、先ほど意見が出たDコースの最終便を津島駅まで行くことを考えたときに、神守住宅の段階で18時近くなる。一方で西愛宕町方面に行かない場合であれば、神

守住宅の段階で17時43分である。Dコースを津島駅まで行く余地を考えると後者のルートだと考える。

⇒ (名鉄バス)

- ・ Bコースを永和駅まで伸ばす、Aコースを西愛宕町に伸ばす、Dコースの最終便を伸ばすというように全てを伸ばす方向で話が進んでいるように思う。1台につき、1人の運転手で運行しているため、すべてを伸ばしてしまうと運転手の1日の勤務時間が今よりも膨大になってしまう。住民の皆さんのためにどれも選択したいというのはわかるが、会社として、運転手に超過勤務をさせたくないというのがある。
- ・ 事務局は、運転手の勤務時間については考えていないのか。

⇒ (事務局)

- ・ もちろん考えている。全てを行うことはできないため、今までいただいた意見をもとにどれかを選ぶような提案をさせていただいたところである。
- ・ 永和駅まで延伸することで、無理が生じている。いろんな意見を出して、これは無理、あれは無理と全部が否定されるのであれば、永和駅をやめるしかないのではないか。もしくは、抜本的なコースの見直しを考えるしかない。今更だが、運転手の勤務も4コースでは厳しいものがあるとのことなので、3コースにするなどした方がよかったのではないかと。永和駅と大政・西愛宕地区から強い要望があるが、そこまで無理が生じるのであれば永和駅をやめてはどうか。
- ・ 永和駅を無くせば、もう少しダイヤにゆとりが生まれるのか。

⇒ (事務局)

- ・ ゆとりが生まれるというよりは、今と変わらないと思う。今の状態からこのバス停がいるのか、いないのかという話をするだけになるので、ほぼ今の時刻表で回れるのではないかと考える。
- ・ 今、バス停を増やす案がでている。永和駅をやめれば、増やしたままで行けるということではないか。永和駅に行くために、ほかの希望を出しても、全部無理になる。それらが否定されるのであれば、今のままで良いということになる。その方が運転手への負担も料金も今以上になることもない。無理に永和駅に行くことはないと思う。根本は、永和駅に行くことは、是が非かということではないか。永和駅はそんなに需要の見込みがあるのか。

⇒ (事務局)

- ・ 永和駅に行くことが要望としてある。あとは、どの程度の利便につながるかということで今まで議論をしてきている。
- ・ 全体の流れから、ここは失くしてはいけないというようなことを考えていくと、無理に永和駅に行く必要はないのではないかと。事務局として永和駅に行かなければならない理由が何かあるのか。

⇒ (事務局)

- ・今までの議論の中で、永和駅に行くということが決まってきたので、それに基づいて今ルートなどを作成して示している。
 - ・永和駅に行くことにより、他のコースでここを少し伸ばして、バス停を新設するというような、些細なことも全部できないと否定しているではないか。
- ⇒（事務局）
- ・Dコースを津島駅まで伸ばす場合は、Aコースのバス停の新設は難しく、Aコースのバス停を新設する場合は、Dコースを津島駅まで伸ばすことが難しいということで、どこをとるのかというところを検討していただきたい。
 - ・難しいということは、できませんということではないか。その理由が永和駅ではないか。
- ⇒（事務局）
- ・これまでの議論から永和駅に行く方針ということで、大きく変わる永和駅に行くために、それに合わせたルートを検討しないといけないということである。
 - ・永和駅に行くために随分と時間が掛かり、ロスが生じる。無駄なルートだと思うが、本当に需要はあるのか。
 - ・永和駅に行くことは、無駄ではない。神島田地区は、今、どんどん新しい人も入ってきており、人口の割合は結構多いと思う。神島田地区においては、合併する前も後も永和駅がアクセスのポイントである。一時、名鉄バスが運行していたが、それが途絶えてからは、永和駅までの移動手段は全くなかった。前回の見直し時の検討委員会でもその話が出たかと思うが、乗り入れはできなかった。今回の検討委員会では、是が非でもという要望で私が話をした。
 - ・永和駅まで行ければ利便性はいいと思う。ふれあいバスで永和駅に行くのではなくて、むしろ、前に来ていたのだから路線バスとして、名鉄バスに永和駅に行ってもらうのが一番良いのではないか。
 - ・採算を理由に廃止されている。
 - ・採算をとれないということは、需要があまりないということではないか。名鉄バスの路線バスで延長してもらう方が、話がスムーズではないか。
 - ・先ほど委員が話されたように、市のふれあいバスなので、地域からの要望もあるため、なんとかお願いしたいと考えている。
 - ・永和駅は、弥富市の海南病院に行くのに利便性が良い。
 - ・名古屋駅から地下鉄で行けるため、中村の日赤病院も利用が多い。
 - ・永和駅に行くために、新しいコースがいくつも否定されるのであれば、どうしたらいいのかという話になる。永和駅のために、全部認めましょうという

話になる。事務局はそういう言い方をしている。永和駅を大前提で、あとの他のところは、全部我慢というぐらいの話である。

- ・ダイヤは、どれぐらいの期間で見直しするのか。途中で変えることはできないのか。
- ・少しぐらいなら変えることができても、4年か5年ぐらい経たないと、大々的に変えるのは無理だと思う。

【アドバイザーからの助言】

- ・要望があるのであれば、要望を聞くというのは大事なことである。どちらの要望が強いか弱いかというのは関係ない。どちらかの要望を無視して、こちらの要望だけをやるというのは、おかしいので、そこは対等だと思う。今の話でいえば、西愛宕町に行くことも、永和駅に行くことも対等なことであると思うので、考えてほしいと思う。

今の路線で重複しているのは、津島駅からヨシヅヤ本店の間である。そこがたくさんあるので、全体のネットワークを多めにして、重複しているところを削るのであれば、津島駅とヨシヅヤ本店の間を少し抜き、ヨシヅヤ本店が乗り換えの拠点となれば良い。津島駅まで行く路線もあって良いと思うので、4本のうち2本は津島駅に行くが、2本はヨシヅヤ本店で折り返す。そういったことで大分変えると思う。あとは、ヨシヅヤ本店のところでもうまく回れるかどうかだと思う。回れるというのは、ヨシヅヤ本店の中で回るのではなくて、大きな道路で回るということである。

【各委員からの意見等】

- ・名鉄バスが最初からできないという話であると思う。起点は、津島駅でないといけない。運転手の問題があり、コースのローテーションの問題がある。

⇒ (アドバイザー)

- ・だから、そういうことを検討するということである。今すぐに結論を出さなくても良いのではないか。
- ・名鉄さんがバスを津島駅に起点にしないと今の運行は無理だということを最初から言われている。

⇒ (アドバイザー)

- ・全てではなく、2本に1本ぐらいが良いのではないですか。
- ・それは名鉄さん次第だと思う。

⇒ (アドバイザー)

- ・それでは、検討してください。

⇒ (名鉄バス)

- ・はい。
- ・例えば、Aコースが5本あるが、これを4本にしたらどうなるだろうか。

- ・現在6本のところを1本減らしての5本である。確かに、他のコースは4本であり、Aコースは、今は6本で、ここで1本減らすことになる。4年に1本ずつ減らすのであれば、まだ良いかもしれないが、急に4本に減らすことは難しい。
 - ・Cコースの利用者は増えているのか。Aコースは、利用者数が横ばいだったが、今はどうか。
- ⇒（事務局）
- ・Cコース、Aコースともに利用者が増えている状況がある。

【事務局資料説明】

- ・資料1及び資料2によりBコースの見直し案を説明

【各委員からの意見等】

- ・永和駅から設置するバス停まではどれくらい時間が掛かるのか。
- ⇒（事務局）
- ・歩いて2、3分で行ける距離になる。
- ⇒（名鉄バス）
- ・資料1の永和駅バス停設置個所の写真の奥に見える建物の手前を右に曲がってすぐのところが永和駅となる。
 - ・運転手の労働条件として、時間がオーバーになると難しい面があるということだが、なんとか他でクリアできないかと思う。今回初めて他の市町村に乗り入れをするということで、何か手は打てないのか。
 - ・事務局は、運転手の勤務時間などは考慮されているのか。
- ⇒（事務局）
- ・考慮している。運転手の勤務時間などは、法律で定められている部分があり、しっかり守らないといけないところがある。1日当たりの労働時間や4時間運転した場合は、30分間の休憩をしないといけないことなど、決められたルールの中でやっていく必要がある。また、市の予算として、例えば1日1時間増えたとしても、年間300日を超えて運行するため、多くの経費が必要となるので、その辺りについても考慮して考えている最中である。
 - ・現在の永和駅北口のバス停は、廃止となるのか。
- ⇒（事務局）
- ・そう考えている。現在、駅から少し離れた永和駅北口を永和駅までのアクセスのために設置しているが、永和駅に新たにバス停を設置するため、廃止と考えている。
 - ・提案のルートは、田んぼの中を回って、遠回りしているように見えるが、もっとダイレクトに永和駅に行くことはできないのか。
- ⇒（事務局）

- ・運行する経路として、JRの線路を横断する必要があるが、横断できる踏切がこの場所にしかないため、このような設定になっている。
- ・運賃について、200円にするとは言わないが、110円や150円にするなど少し値上げすれば収入も増えるのではないか。
- ・運賃の値上げについて、行政の考えはどうか。

⇒（事務局）

- ・アンケートでも運賃については、お聞きをしているところである。
今回は、ルートの見直しということで、ルートを優先して検討していただくことにしている。将来的には、運賃が200円になるのか、300円でもいいのか、以前この会議であったように500円払っても便利になるなら乗っても良いという方もみえるとのことであったので、この辺りは、今度の大きい改正のときに考えたいと思っている。
- ・永和駅行くことになると4、5年は、改正されないと思うので、人数がどれぐらい乗られるのか再度調査をして、人数が少なければ再度検討すれば良いのではないか。
- ・大体で良いので、どれくらいの方が利用されるのかわからないか。
- ・今の段階では、永和駅よりも近鉄の富吉駅の利用が多い。利用人数まではつかんでいないが、バスが永和駅まで運行すれば、永和駅の方が料金も安く、そちらを使いたいというような声が最近は多くある。名光精機などの工場などもでき、バスが使えるのかわからないが、歩いている方を見かける。永和駅の人の入りが多くなった。ルートについては、ある程度のスパンで見直しをしていただければ良いと思う。
- ・西地域防災コミュニティセンターは、乗り降りが少ないように思う。AコースからBコースの乗継ぎが不便になるところは、ずれる時間が大きすぎる。Aコースは、6本が5本で不便になる。これは、大きなことだと思う。この検討委員会に出席するときは、なんとかふれあいバスに乗ってと思って、午前のおきも午後のおきも時刻表を見たが利用できなかった。不便になる中でなんとか乗継ぎをうまくいかせようと思えば、利用の少なそうな藤浪中学校西、西防災地域コミュニティセンターなどを減らしたり、マックバリューへの新設をやめたりすれば、何とか乗継ぎがうまくいくのではないか。
- ・西防災地域コミュニティセンターは、大縄町のことがあるのではないか。
- ・この前も大縄町についての意見があった。大縄町については、タクシー車両を利用することを検討しているとあった。そうであれば、津島神社南まで行くことにしても大して変わらないと思う。
- ・神社まで行くのであれば、津島駅まで行っても良いのではないか。
- ・そうすると他の地域からこっちもタクシーで行かせてほしいと不公平感が出る。

- ・AコースとBコースでまだ検討するところが先ほどの意見の中ではあったが、事務局はどのように考えるのか。

⇒（事務局）

- ・たくさんご意見をいただいたので検討をさせていただきたい。最後に西地域防災コミュニティセンターのバス停について、西コミュニティの方からも利用が少ないという話があった。

この後にお話しさせていただく接続便の話について、発着の拠点を西地域防災コミュニティセンターにしようと考えていた。もし、西地域防災コミュニティセンターから津島神社南までを接続便で繋ぐという案でも西コミュニティが問題ないということであれば、そちらについても、先ほどの西愛宕町やDコースの最終便を津島駅まで行くことと併せて検討させていただきたいと思うがいかがか。

- ・それで良いと思う。

(3) 巡回バスだけでは賄いきれない地域の交通手段について

【事務局説明】

- ・前回の第2回検討委員会で大縄町にバス停を設置して、そこから西地域防災コミュニティセンターまでタクシー車両を使ったデマンド便を運行することを提案させていただいたが、その話を大縄町の町内会長に市から説明をした。
- ・町内会長からは、市が提案する運行の仕方について、町内会役員に説明を行い、年明けぐらいに住民を集めて意見交換をしたいとの話があった。
- ・本日の会議で西地域防災コミュニティセンターについての話があったので、ふれあいバスで西地域防災コミュニティセンターに行かない場合について、大縄町と西地域防災コミュニティセンターから津島神社南まで行くという話もしていきたいと思う。

【各委員からの意見等】

- ・西コミュニティの方で車を用意して運行ということか。

⇒（事務局）

- ・タクシー事業者を利用することを想定している。

この話は、もともと大縄町から要望があって検討を進めているものであり、前回までは、大縄町から西地域防災コミュニティまで運行すれば、ふれあいバスに乗れるということで、大縄町と西地域防災コミュニティセンターを繋ぐタクシーを利用したデマンド交通という提案をしていた。

提案するデマンド運行をした場合に大縄町の方で要望があるのか、使えるのかというご意見をいただきたいので、町内会長に来ていただいて、ご説明をさせていただいた。その結果、先ほどお話ししたように、持ち帰って

地元の方で話を聞いてみるという返事をいただいたので、1月を過ぎたら、また返事をいただくということでご検討をいただくことにしている。

今、お話しをいただいた巡回バス自体の時間を少しでも短縮するために西地域防災コミュニティセンターまで巡回バスを回している状態のところを保健センターからそのまま津島神社南に回すと、5分ぐらいの時間が確保できる。その5分の時間を西愛宕町の方に持っていけば、西愛宕町の方が回れるという議論ができるというのがある。

- ・それは良い考えだと思う。
- ・デマンドについて、行きはわかるが帰りはどうなるのか。

⇒（事務局）

- ・帰りは、津島神社南から西地域防災コミュニティセンター、大縄町のそれぞれをタクシーで繋ぐことになる。乗りたい人が乗りたいといえばタクシーが来て、タクシーで各所に行くことができる。
- ・タクシーは予約しなくてはならないが、高齢者がそれをするのかは疑問である。

⇒（事務局）

- ・その時間にバスが来るということで皆さん時間を組まれると思うので、そのバスの時間に合わせたタクシーの時間を設定することで、何時のタクシーに乗りたいかということになる。あとは、予約が必要なので、早めに乗る時間を決めていただくということになる。
- ・1台のタクシーに5人、6人、7人乗る場合は、どうするのか。

⇒（事務局）

- ・5人以上利用される場合は、前日までに予約していただければ、車両を用意できるようにすることが考えられる。
- ・タクシーは、やる価値があると思う。
- ・大縄町の人と話をしていたが、利用する人は、そんなに多くないと感じたので、金銭的には、そこまでの負担にならないと思う。
- ・大縄町がやっているなら、私のところの町内にもやってほしいという意見が出てくるのではないか。
- ・車が小さければ、何処へでも入っていけるので、出てくると思う。

【アドバイザーからの助言】

- ・本日多く意見が出たが、もう一度前提条件をしっかりと整理して、どの前提ならどこまで融通が利くのかを合わせてみていただければ良いと思う。

第4回津島市巡回バス検討委員会 会議結果

日 時：令和2年1月24日（金） 午前10時から11時15分まで

場 所：津島市役所 3階 市長公室

◆ 議題

- (1) ふれあいバスのルート等の見直し案の決定について
- (2) 巡回バスだけでは賄いきれない地域の交通手段の確保について

◆ 会議の結果について

1 議題

- (1) ふれあいバスのルート等の見直し案の決定について

【事務局資料説明】

- ・令和元年12月16日開催の第3回津島市巡回バス検討委員会において、各委員からの意見をもとに修正したルート及びダイヤの見直し案について、修正箇所を中心に資料1及び資料2により説明した。

Aコースの見直し案について

- ・西愛宕町方面にバス停を設置することについて、高齢者の人も多くなり、運転免許証の返納も多くなっているため、バス停が設置される地域としては、ありがたいことだと思う。
- ・西地域防災コミュニティセンターのバス停を廃止することについて、コミュニティの役員と施設のある町内会長のほか、地域住民の方に説明をして意見を聴いた。利用者が少ないことなどを説明して、西地域防災コミュニティセンターのバス停の廃止を納得してもらった。
全体的に皆さんがふれあいバスについて、御存じなく、運行方法にも認識不足があるように思えた。
廃止が2箇所、新設が4箇所となるため、廃止する2箇所よりも利用が増えることを願っている。地域で説明してきた経緯があることから、新設したバス停の利用者の方が少ないとなると困るので、なんとかバスの利用者が増えるように努力をしてもらいたいと思う。
- ・Aコースの見直し案は、資料のとおりにするということによろしいか。
⇒（委員各位）
 - ・異議なし。

Bコースの見直し案について

- ・神島田地区の念願であった永和駅への乗入れの話を進めていただき、他のコースの皆さんに迷惑を掛ける形となっているが、地元においては、大変喜ばれている。今まで全然受け付けてもらえなかったのに本当に大丈夫なのかと、

地元では、まだまだ信用してもらえていないが、コミュニティとして、神島田地区に号外を出して、お知らせをしたいと考えている。

- ・ Bコースの見直し案は、資料のとおりにするということによろしいか。
- ⇒ (委員各位)
- ・ 異議なし

Cコースの見直し案について

- ・ 意見なし
 - ・ Cコースの見直し案は、資料のとおりにするということによろしいか。
- ⇒ (委員各位)
- ・ 異議なし

Dコースの見直し案について

- ・ 現在は、百町の交差点を右折し、白浜町のバス停に行くルートだが、百町の交差点を直進し、西尾張中央道の神尾町の交差点を右折し、金柳町の交差点で左折して現在のルートに合流する平成26年に行った改正前のルートでも良いと地元から意見をいただいている。こちらの方が時間を短縮できると思う。現在のルートの白浜町、高台寺は、利用者が少ないため、どちらのルートでも良いとのことだったので、検討してはどうか。

⇒ (事務局)

- ・ 現在、白浜町、高台寺のバス停の利用者数は、それほど多いわけではないが、どれくらい時間が短縮できるのか、影響などを調べて検討させていただきたい。
- ・ 白浜町、高台寺の地域のルートについて、事務局にどちらのルートが良いか検討して決定してもらおうということによいか。

⇒ (委員各位)

- ・ 異議なし

⇒ (事務局) 検討結果を次回の会議で報告する。

- ・ その他については、資料のとおりにするということによろしいか。

⇒ (委員各位)

- ・ 異議なし

(2) 巡回バスだけでは賄いきれない地域の交通手段の確保について

【事務局資料説明】

- ・ 1月18日に大縄住宅において、資料4の巡回バスだけでは賄いきれない地域の交通手段の確保について説明を行ったところ、大縄町からは、試験運行を実施する方向で話を進めてほしいとのことであった。

【各委員からの意見等】

・試験運行は、やってみなければわからない。予約が必要であることは、面倒ではあるが、足の悪い人など使う人は使うと思う。

・試験運行の期間は、どれぐらいか。

⇒（事務局）

・ふれあいバスの見直しと同時に開始して、1年間を予定している。

その間にご意見を聴いて、分析し、試験運行を延長するのか、本格的に始めるのかなどを検討したいと考えている。

・乗る方法などは、どのような手続きを想定しているのか。

⇒（事務局）

・資料4の4ページに利用例を示している。ふれあいバスに乗っていただけるように運行することとし、時刻表を作って、決まった時間から乗りたい時間を選んで、電話予約してもらい、地域に設置する停留所から津島神社南まで利用してもらうことを考えている。

・実際に試験運行をやってもらい、1年間あるので、うまくいかない点や改善点について意見を出してもらおうということで良いと思うので、やっていただきたいと思う。

【アドバイザーからの助言】

・公共交通という立ち位置から申し上げると“ネットワーク”網の目になっていることが大事である。ネットワークは、鉄道や路線バスと地域のバスが一体となり、やっと完成するものである。今回、名鉄の電車だけではなく、JR線にもつなぐというのは、形としては、良い方向にできたと思う。

もう1つは、新しい仕組みとしていわゆる“デマンド”である。今までだと待っていれば、電車やバスが来るということであった。デマンドは、呼ばないと来ない、逆に言えば、呼べば来るということである。呼ばなければ来ないと思うのか、呼ぶと来てくれると思うのかで印象は変わるが、効率性を考えて、そのような時代になって来た。そこをうまく使っていくことが大事であるので、これから実験的にやっていって、確かめていくということである。本数などについて、コースごとに見ると少なく見えるが、中心部でAからDコースまでが入り組んでいるので、乗り継ぐことを不便に感じるものではあるが、うまく乗り継ぐことを前提に見てもらえば、この地域にかなりたくさんバスがあるというのが見えてくるのではないかと思う。そういった使い方も検討をしていくと良いと思う。加えて、名鉄バスがあるので、そちらとのスムーズな連絡について、近くのバス停の時刻表をつくり、どこで、どのように乗り継いだら良いのか、津島駅だけではなく他で乗り継ぐこともできると思うので、うまくできたら良い。

さらに愛知県内全体の色々なところで言われていることだが、今後は、津島市だけでなく、他の市町との連携を考えるということである。私は、春日井

地域でも委員をやっているが、春日井、小牧、犬山、その辺の連携をどうしようか、などの話がでてきている。今回、永和駅に出て行くことで、そこで連携ができてくるため、津島市だけではなく、外に広げて、お互いに行きたいところに行けるような形になれば良いと思っている。

第5回津島市巡回バス検討委員会 会議結果

日 時：令和2年2月20日（木） 午前10時から11時15分まで

場 所：津島市役所 3階 市長公室

◆ 議題

- (1) 地域公共交通会議の見直し案に対する意見等について
- (2) 市長への報告内容の決定

◆ 会議の結果について

1 議題

- (1) 地域公共交通会議の見直し案に対する意見等について

【事務局説明】

- ・地域公共交通会議でのルート等の見直し案に対する意見として、1つ目は、縁石のある場所への停留所の設置は、避けた方が良いという意見があった。名鉄バスからは、可能であれば、停車位置を前後させ、縁石を避けて停車する。それが難しい場合は、事前に縁石があることを周知して対応することが基本的なルールとなると回答をいただいた。2つ目は、ルート見直しについて、関係機関やバス停設置先の地権者との調整をしていくようにと意見をいただいたので、しっかりと調整を進めていきたい。
- ・巡回バスだけでは賄いきれない地域の交通手段の確保に対する意見として、タクシー事業者に運行を委託する場合の助言をいただいた。通常のタクシーとは異なり、1乗車100円として、一人ひとりの方に運賃をお支払いいただき、乗り合っていた場合には、事業者が使用できるタクシー車両が制限されることになる。確実に配車を行うための特定の車両を確保しなくてはならないことで、利用前の予約締切り時間への影響や地域を拡大する場合に対応ができないことがあると思われるので、しっかりとタクシー事業者と話し合うようにという意見をいただいた。また、試験運行を行う中で、乗合いでの利用率などを検証して、今後の運行手法をどうするのか、先を見据えて検討をしていただきたいという意見をいただいた。
- ・第4回の会議で、Dコースの白浜町、高台寺について、平成26年7月の改正前のルートでも良いという意見から事務局で検討をするとされていたことに

ついて、前回に見直された経緯を確認した。平成26年の見直しの際には、西尾張中央道の金柳町交差点の西側につながる住宅街を運行するルートが要望されていたが、その道路が通行規制により使えないこと、また、名鉄バスのバス停が県道沿いにあり、ふれあいバスの路線と重なっていることから、少しでも多くの地域で公共交通が利用できるように今のルートとされている。現在の白浜町、高台寺のバス停は、多くはないが利用があることや公共交通が利用できる地域を広げることができているので、現行のルートのままで、運行した方が良く考える。

- ・バス停名称について、現在のふれあいバスは、市役所や市民病院という名称のバス停になっている。バスに乗ろうと思って、インターネット検索でバス停の場所や乗車時刻を調べようとした場合に、全国で、同じ名前のバス停が多くあるので、スムーズに検索ができないことがある。そこで、全国でよく使われているバス停の名称には、津島を付け足して、津島市役所や津島市民病院とすることで津島市ふれあいバスのバス停を特定し、容易に検索や場所を調べることができるようにバス停の名称を変更したいと考える。

【各委員からの意見等】

- ・Dコースは、最終便を津島駅まで運行していただけるのであれば、事務局から提案するルートが良い。
- ・Dコースの見直し案を資料のとおりとすることを決定してよいか。
⇒（委員各位）
 - ・異議なし
- ・大縄町から津島神社南まで100円で、そこからふれあいバスに乗車して、さらに100円と料金が別に掛かるという理解でよいか。
⇒（事務局）
 - ・そのとおりである。

【アドバイザーからの助言】

- ・地域公共交通会議での意見について補足をする。縁石のあるところを避けるというのは、車椅子の使用者が乗るときの話である。車椅子に乗ったままでバスに乗るためのスロープ板を出そうとしたときに、縁石と歩道が同じ高さになっていない場所だと設置が難しい場合がある。その際は、縁石のないところに乗車位置を少しずらして対応をするということである。
- ・巡回バスで賄いきれない地域でタクシーを使う場合には、2つのやり方がある。
1つ目が、乗合タクシーと呼ばれるものである。通常のタクシーは、貸切バスと同じ扱いで、お客さんが1人でも3人でも運転手に支払う額は同じなので、1台を貸し切っている形となる。タクシーをバスのように使う乗合タク

シーは、一人ひとりからお金を取る形になり、別に取決めをする必要がある。その取決めをする場合は、タクシー会社がたくさん車両を持っているが、全ての車両をバスのように使える車両だと登録するのか、50台あるうち10台を登録するのか、使う車両を登録しないとイケない。このため、乗合タクシーと決めてしまうと車両のやりくりに困る場合があるかもしれないという話である。他の地域で行われている最近の話として、普通のタクシーを使うが、個人がタクシーと契約するのではなく、市役所や町内会が契約をしておいて、最終的には、そこから支払がされる。また、お客さんから、運転手が料金を一部預かり、さらに精算をするということもある。最近は、そのようなやり方も増えてきている。そのやり方なら、特別な取決めによる制限がなく、一般的なタクシーが使える。このため、いろいろと検討をされた方が良いという意見があった。

もう一つは、通るルートについて、この道しか通れないと決めることもできるし、この地域を通るという区域運行といわれるルールもできる。雁字搦めにこの道しか使えないという指定をするよりは、ここからここまで行くが、途中で違う道を通っても良いというようにした方が良いかもしれないという意見があった。これについては、これからタクシー事業者と調整して、契約するときどの方法が良いのかを考えた方が良いというアドバイスを受けたということである。

(2) 市長への報告内容の決定

【事務局資料説明】

- ・資料1により市長へ報告する津島市巡回検討委員会報告書案について説明

【各委員からの意見等】

- ・要旨5番目について、市の財政状況とある。今後は、こういったことも考えていく必要があると思う。今回の見直しを行うことにより、新たに利用される方もみえると思う。また、運転免許証を返納される方が増えてくると思うが、このような方にフリーパスや無料券などは考えていただけないかと思う。
- ・今は、10枚の無料券が交付されているが、これを無料パスにするべきである。
- ・10枚といっても実際には、往復で5回分である。また、使用には、有効期限がある。
- ・乗車定員には、まだ余裕があるので、1年間の無料パスぐらいは行うべきだと思う。
- ・最近免許証を返納される方が身近なところでも増えている。高齢になり運転免許証を返納した人が公共交通であるバスを利用するように回数券や無料券の発行は考えていただけるのか。

⇒ (事務局)

- ・最近の運転免許証の返納の動きは、高齢者の事故が増えてきたという社会の流れもあり、多くなってきたことかと思う。市の財政状況とあり、また、その後に社会情勢ということも記載している。最近、介護予防なども良くいわれており、健康な方はなるべく外に出て活動をしていこうという動きもある。現在のバスは、公共交通として運行しており、一定の利用者の負担をいただきながら維持をしていきたいと思いますということで、皆さんから100円のご負担をいただいているところである。今後の見込みと公共交通の在り方をどうしていくのかを検討していくこともあると思う。また、障がい者、高齢者の交通手段の確保は、福祉部局でも検討をしている。バスで高齢者に無料券を出していくのか、別の交通手段を考えるのか、これから検討していくところにあるので、その辺りは、ご了承をいただけないかと思う。
- ・運転免許証を返したから全てを無料というのは、やり過ぎかもしれないが、返納される年代の方というのは、市民病院のような医療機関へ行かれる方が多い。行先によっては、安くなる、無料になるということも検討していただければ、ありがたい。

【アドバイザーからの助言】

- ・要旨5番目の冒頭で、「次回のふれあいバスの見直しの際には」と限定してしまっている。検討は、いつでもやる必要があるので、「引き続き」として、まとめた方がよい。ふれあいバスで賄いきれない地域の運行や今の無料バスについても議論は続けられればよい。現在の書き方では、次回まで何もやらないような形にとらえられるので、常に情報を集めて、検討していくということで修正しては、どうか。

【各委員からの意見等】

- ・ただいま助言をいただいたとおりに要旨5番目の冒頭を「引き続き」に修正することとしてよいか。

⇒（委員各位）

- ・異議なし

【市長への報告内容の決定】

- ・議事内容のとおり報告内容の要旨5番目の「次回のふれあいバスの見直しの際には」を「引き続き」に修正して、報告内容とすることを決定した。その後、各委員へ修正した資料を配布し、確認を行った。

(3) その他

【ふれあいバスに関する各委員からの意見】

- ・学生による利用促進の提案が5つほどあった。非常に良い提案であったが、それらの話については、検討をしていくのか。
- ⇒（事務局）
- ・事務局から学生提案の内容について説明した。
 - ・学生からの提案は、具体的な財源や人的なところに制限を付けずに募集したため、実現させるところまでを想定していなかったが、置き傘のリサイクルなどの提案は、実際に置き傘をバスの中においている事例もあることから、実現可能性が高い提案であると考えている。市役所が実施できるものであれば、ある程度は、実現がしやすいと考えているので、もう少し具体化した上で、提案内容に関係する各課と連携して実施できないか、打診をしていこうと思っている。しかしながら、全ての提案の実現を探るのは難しいと考えている。
 - ・今後の利用者を増やすためにも、天王祭の朝祭りを小中学生がバスを使って見学に行く企画や職場体験にバスを使ってもらえば良いと思う。最初は、乗るのが怖いと感じると思うが、一度経験すれば、次からは自分で乗れるので、最初の利用機会を作ることができれば良い。
 - ・子どもがバスを利用していないので、学校にも協力してもらい、子どもがバスを利用する機会を作ると良いと思う。引率もPTAや地域の住民が協力すれば、より良いと思う。
 - ・コミュニティでは、ウォークラリーなどのいろんな行事を行う。その度にポスターを作っているのだから、それらをバスの中に貼っていただけると良い。
 - ・大人でもバスに乗ってもらえる企画があると良い。バスの話をしても乗ったことがない人が多いので理解をしてもらうのが難しい。
- ⇒（アドバイザー）
- ・幼稚園児の絵をバスの中に飾るという事例がある。そこでしか見られないとすれば、孫の絵を見るために乗ってもらえることができる。バスに乗ってお出かけをする習慣をつけようというものである。バスなどの交通は、手段であるが、乗ることを目的にするということがあっても良いと思う。その後バスに乗って出かける目的ができれば良い。
- ⇒（事務局）
- ・ご提案があれば、いつでもご相談をいただきたい。市でも関係課と相談しながら考えていきたいと思う。
 - ・企画立案はなかなか難しいので、市の方で利用促進のための企画立案していただければ、8校区のコミュニティから参加して、手伝うこともできると思う。

【アドバイザーからの助言】

- ・過去から長く気になっていたところの議論を重ねて、会長から話があったと

おり大きな成果があった。このようにバスルートを作るときには、何が常識で、何が常識ではないのか、ということはなく、常に柔軟な発想をして、今までの常識がおかしいかもしれないと、どんどん新しい考えを取り入れてやっていくことが大事である。今回はそれがうまくできたと思う。しかしながら、今回作ったものが、常識だと思って推し進めていくと、またどこかで、これは変だと意見が出てくる可能性もある。そのような意見が出れば、頭を柔らかくして、再度違うアイデアを盛り込んでいなければならぬと思っている。今もまだ、検討は中間だと思っている。運行してみて、意見を聴いて、よりよい地域にしていくことだと思っているので、今後もよろしくお願ひする。